（令和４年度結核対策推進協議会資料）

群馬県結核予防計画の進捗管理

（現状と課題）

目　　次

結核予防計画目標 …… 1
1　総合目標
(1) 結核罹患率 …… 2
(2) 保健所別結核罹患率・患者数 …… 3
2　事業指標
(1) 全結核患者に対する DOTS 実施率 …… 4
(2) 喀痰塗抹陽性肺結核患者のうち治療成功率 …… 4
(3) 新登録菌陽性肺結核患者のうち培養等検査結果把握率 …… 5
(4) 新登録菌陽性肺結核患者のうち登録時薬剤耐性検査把握率 …… 5
(5) 前年登録潜在性結核感染症患者のうち治療完了率 …… 6
(6) 80 歳未満の初回治療患者に対する PZA を含む標準治療の実施率 …… 6
(7) 全結核患者の活動不明率 …… 7
(8) 菌陽性患者の分子疫学的検査の実施率 …… 7
(9) BCG 接種率 …… 8
(10) 接触者健康診断の受診率 …… 8
(11) 結核健康診断実施月報の報告率（県保健所） …… 9
(12) 市町村長が実施する定期健康診断の受診率 …… 9

3　高齢者の結核について …… １０

4　外国出生者の結核について …… １１

群馬県結核予防計画　目標

総合目標	H28年	H29年	H30年	R１年	R２年	R3年	R3年評価	目標値 R4年（2022年）	国指標
令和４年（２０２２年）までに本県の全結核罹患率を人口１０万対７．０以下にする。	9.3	9.4	8.8	8.0	7.8	6.4	◎	7.0	１０以下

指標番号	事業指標	H28年	H29年	H30年	R１年	R２年	R3年	R3年評価	目標値 R4年（2022年）	国指標
1	全結核患者に対するＤＯＴＳ実施率	98.3%	96.4%	100.0%	94.7%	83.5%	100.0%	◎	維持	95%以上
2	喀痰塗抹陽性肺結核患者のうち治療成功率	54.4%	76.2%	71.4%	74.4%	64.4%	68.1%	○	70%以上	―
3	喀痰塗抹陽性肺結核初回治療の失敗・脱落率	5.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	◎	1%以下	5%以下
4	新登録菌陽性肺結核患者のうち培養等検査結果把握率	99.3%	99.3%	100.0%	99.1%	100.0%	98.9%	○	100%	―
5	新登録塗抹陽性肺結核患者のうち薬剤感受性結果把握率	68.0%	81.4%	83.2%	89.8%	91.1%	96.2%	◎	95%以上	―
6	潜在性結核感染症患者のうち治療完了率	82.8%	80.2%	90.1%	86.2%	86.8%	83.6%	△	95%以上	85%以上
7	80歳未満の初回治療患者に対するPZAを含む標準治療の実施率	85.3%	83.0%	82.7%	82.0%	83.3%	78.9%	△	90%以上	―
8	全結核患者の病状不明率	21.2%	16.4%	15.8%	8.4%	12.2%	4.2%	◎	5%以下	―
9	菌陽性患者の分子疫学的検査の実施率	67.4%	76.7%	75.6%	87.5%	88.0%	63.2%	△	95%以上	―
10	BCG接種率※	98.4%	98.6%	99.9%	98.7%	100.4%	97.8%	◎	維持	95%以上
11	接触者健康診断の受診率（県保健所）	97.8%	97.4%	98.8%	98.7%	99.8%	100.0%	◎	100%	100%
12	結核健康診断実施月報の報告率※	78.1%	71.0%	77.9%	78.6%	80.3%	80.9%	○	90%	―
13	市町村長が実施する定期健康診断の受診率※	32.1.%	28.5%	28.7%	28.8%	20.9%	24.7%	△	40%	―

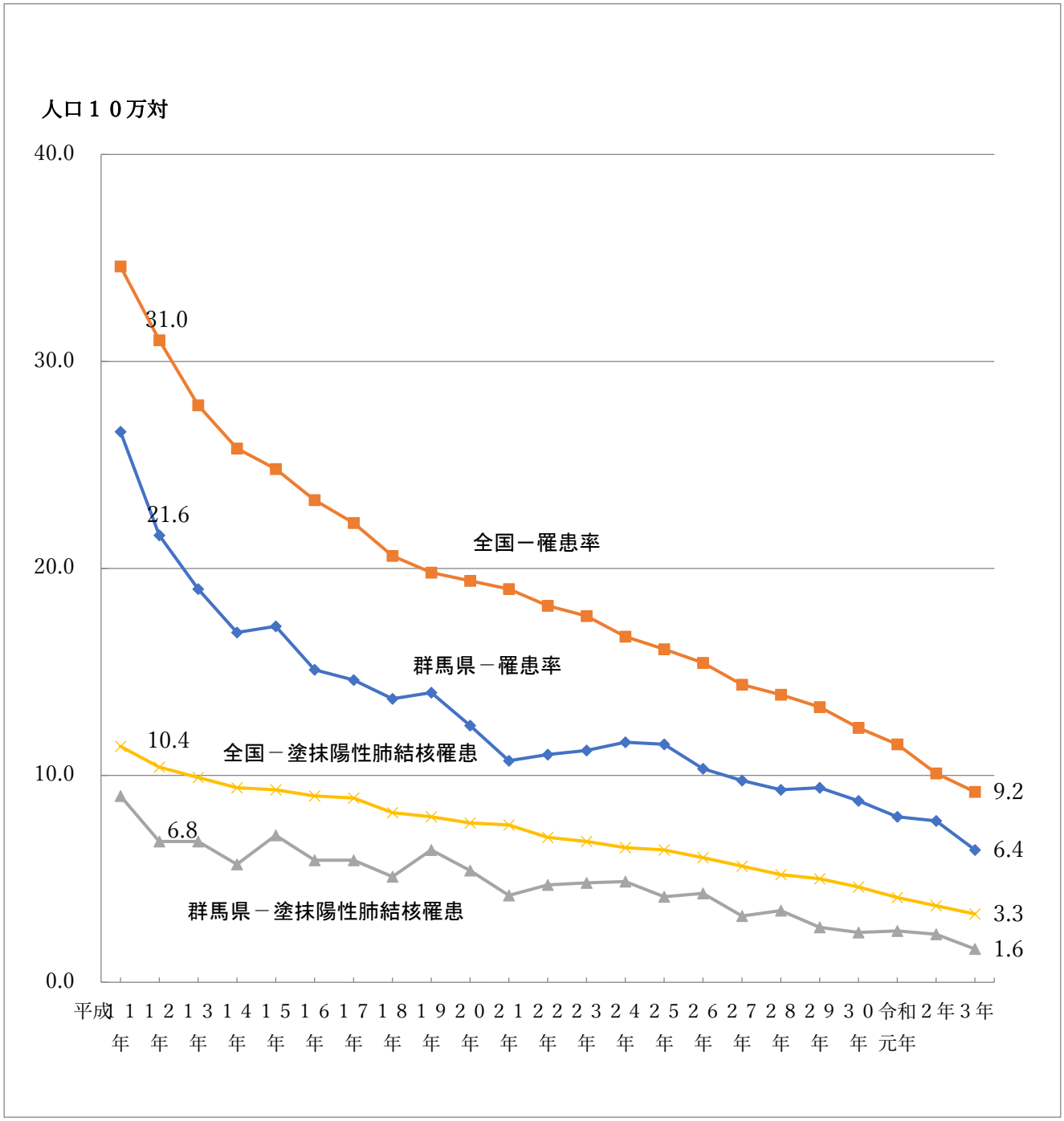
※集計単位：年度

評価の表示について

◎　目標値以上
○　目標値以下であるが、改善傾向にある。
△　計画策定時の数値より後退している。

1　総合目標　結核罹患率

（1）図１　罹患率－塗抹陽性肺結核罹患率年次推移　　目標値：7.0



全国の令和３年の結核罹患率（人口 10 万対）は 9.2 となり、前年と比べ 0.9 ポイント減少している。日本の結核罹患率が 10 以下となり、初めて低まん延化（WHO 定義：低まん延とは罹患率人口 10 万対 10 以下）を達成した。

本県の令和３年の結核罹患率（人口 10 万対）は 6.4 であり、前年と比べ 1.4 ポイント減少している。

日本の結核死亡率は前年と比べ同率であった。全世界的には、結核患者は減少したものの、結核死亡者が増加に転じており、新型コロナ感染症が結核対策に影響したと考えられている。

（2）図２　令和３年結核罹患率（人口 10 万対）（保健所別）　　目標値：7.0

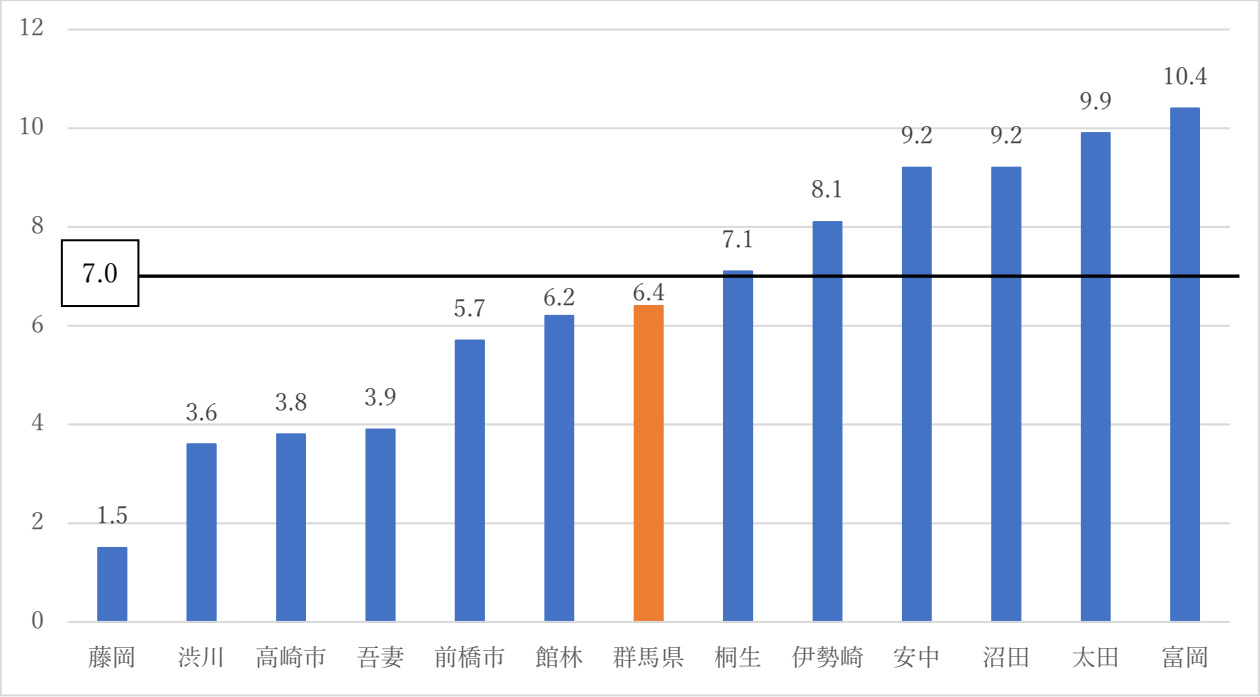


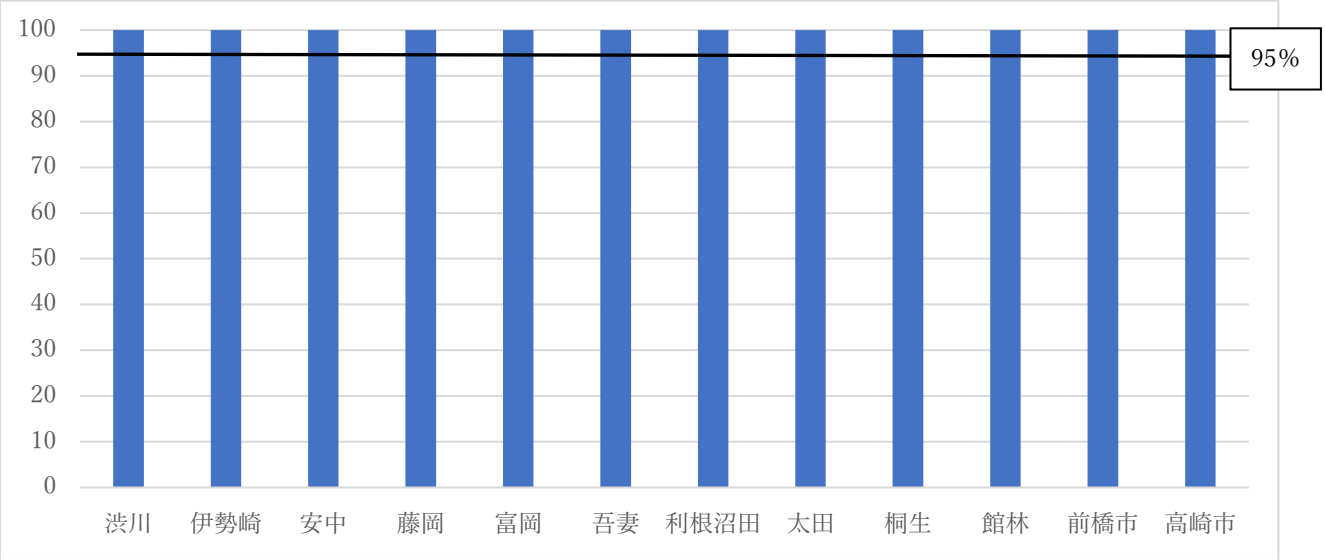
表１　保健所別新登録患者数・罹患率

HC	新登録患者数	結核罹患率
渋川	4	3.6
伊勢崎	20	8.1
安中	5	9.2
藤岡	1	1.5
富岡	7	10.4
吾妻	2	3.9
沼田	7	9.2
太田	22	9.9
桐生	11	7.1
館林	11	6.2
前橋市	19	5.7
高崎市	14	3.8
群馬県	123	6.4

県としては、罹患率 6.4 と、目標の 7.0 以下（R４）を達成した。保健所別の新登録結核患者数は、太田保健所 22 人、伊勢崎保健所 20 人、前橋市保健所 19 人の順に多く、罹患率は富岡保健所が最も高く 10.4、次に太田保健所の 9.9 であった。

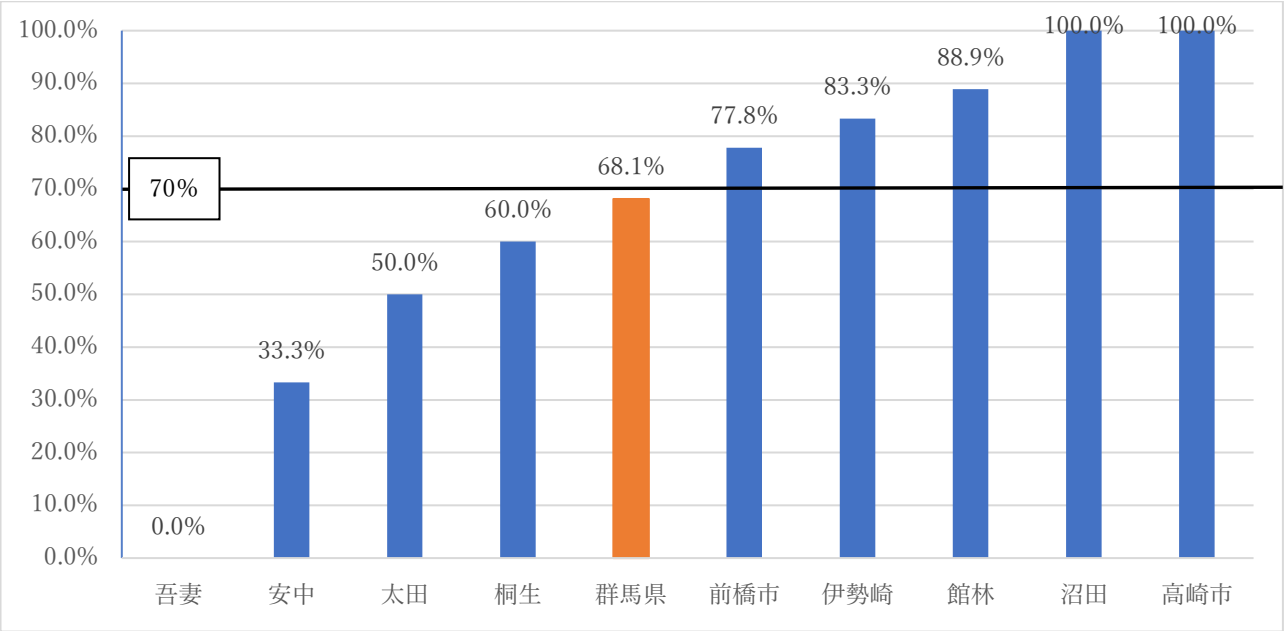
2　事業指標

（1）【指標１】全結核患者に対する DOTS 実施率　　目標値：95%以上



指標１は、結核患者が確実に抗結核薬を服用することにより治療完遂を促し、ひいては結核のまん延防止、多剤耐性結核の発生予防を図るためのプロセスを評価する指標である。令和３年はすべての保健所で100%を達成した。今後も保健所を主体とした服薬支援を強化していく。

（2）【指標２】前年登録喀痰塗抹陽性肺結核患者のうち治療成功率　　目標：70%以上

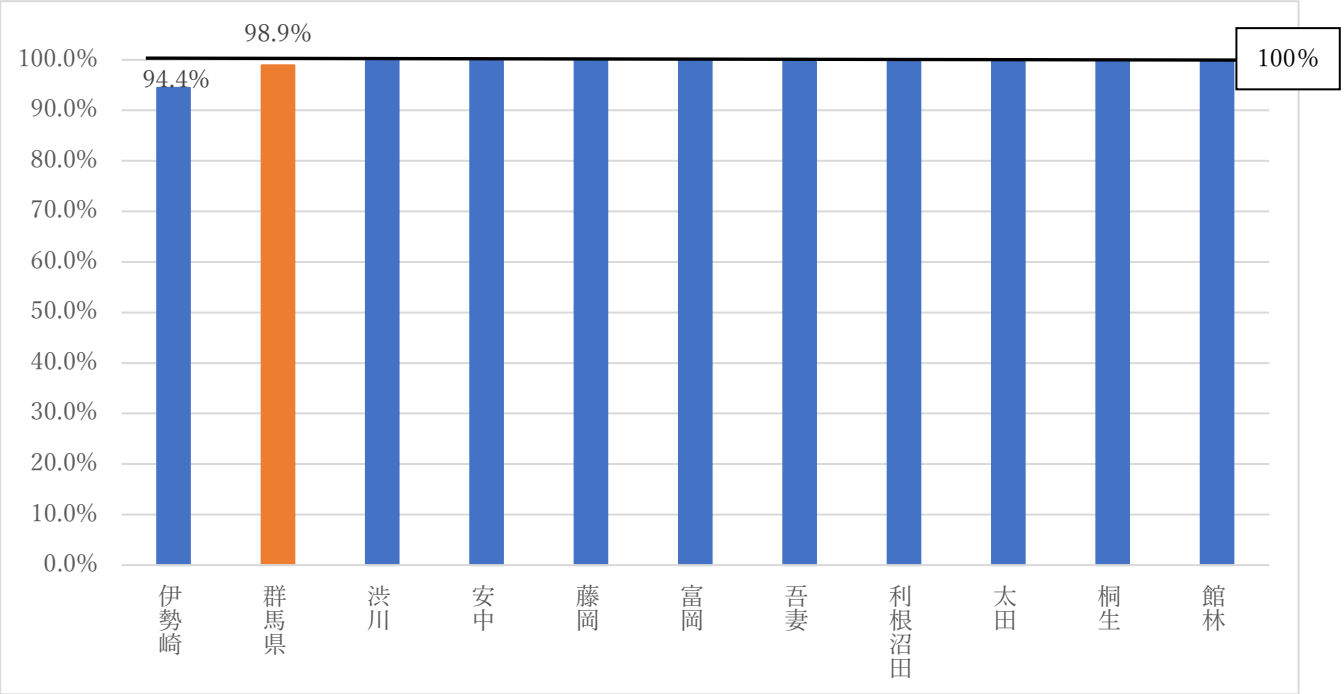


※渋川・藤岡・富岡は対象患者なし。吾妻は１/１（死亡）。

指標２は、喀痰塗抹陽性肺結核患者の治療成功率を示したものである。結核のまん延防止のためには感染性の肺結核患者を確実に治療することが重要である。

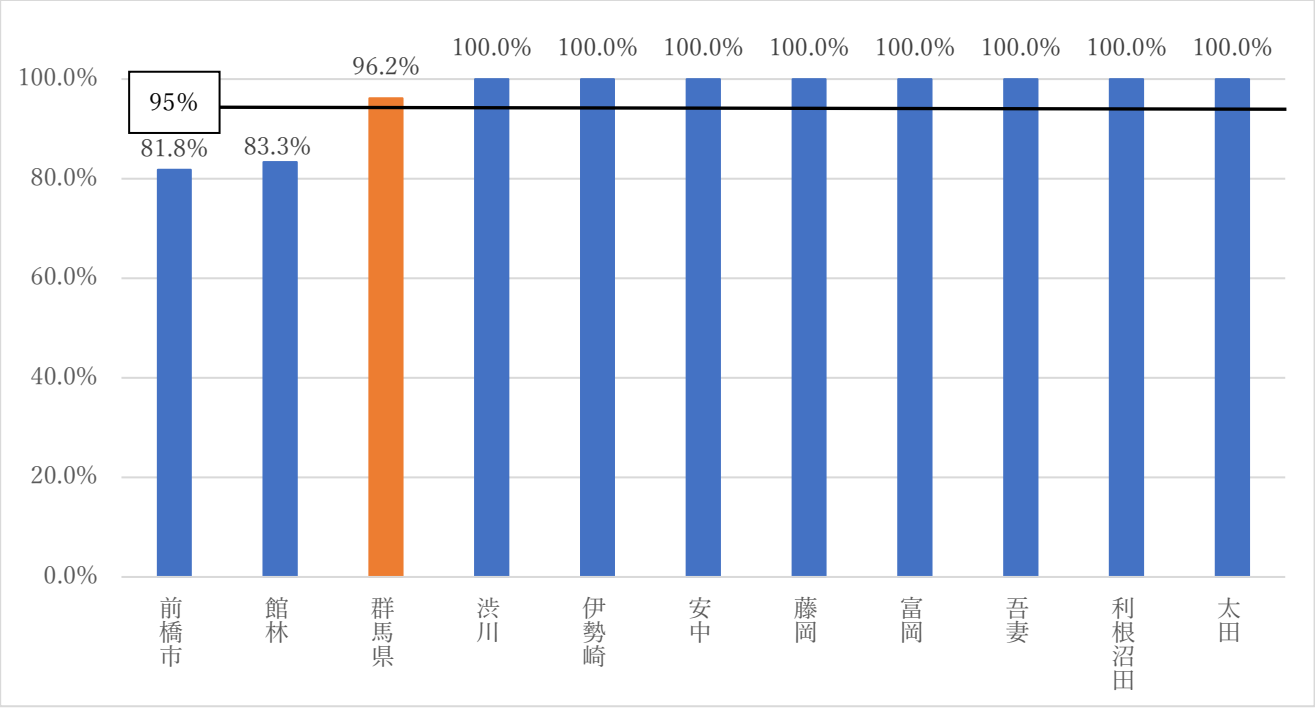
（治療成功：コホート分析において、治癒及び完了の評価を得たものの合計を治療成功とした。）

（3）【指標４】新登録菌陽性肺結核患者のうち培養等検査結果把握率　　目標：100%



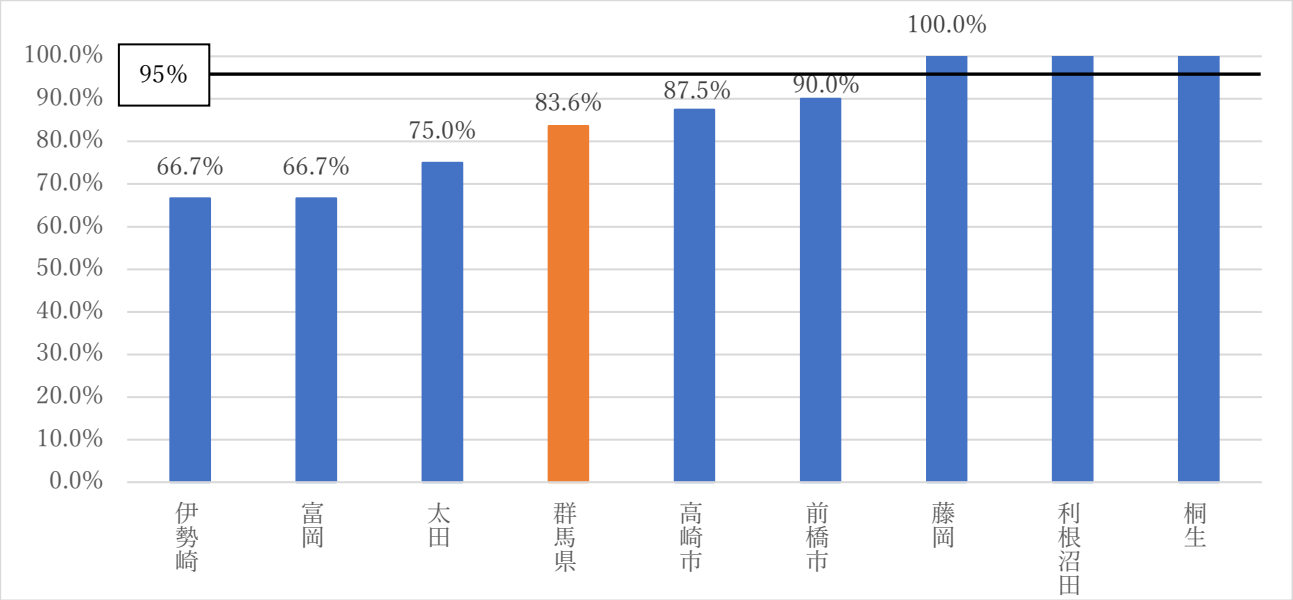
指標４は、患者の結核菌培養結果を保健所が確認したか否かの指標である。令和３年における培養結果把握率は、98.9%であった。伊勢崎は１名把握できなかったが、痰が喀出できず、その他の検査を拒否したため、菌検査が実施できなかった症例である。

（4）【指標５】新登録菌陽性肺結核患者のうち登録時薬剤感受性結果把握率　　目標：95%以上



指標５は菌陽性肺結核患者の薬剤感受性検査結果の把握率を示している。県全体では目標を達成しているものの、目標に達していない保健所があることから、薬剤感受性の把握を徹底していく。

（5）【指標６】前年登録潜在性結核感染症患者のうち治療完了率　　目標：95%以上

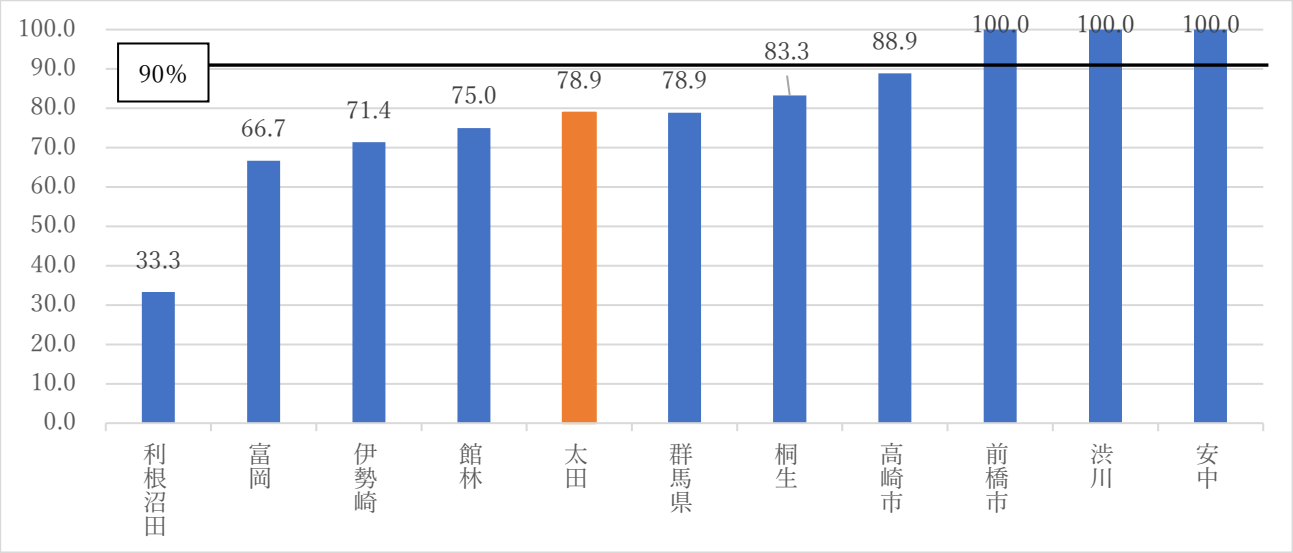


※渋川・吾妻・安中は対象患者なし。

指標６は、無症状かつ感染性のない潜在性結核感染症患者の治療完了率である。結核の低まん延期において患者数を減少させるためには、潜在性結核感染症患者を確実に治療してくことが重要である。

近年、生物学的製剤や抗がん剤等の免疫抑制作用がある薬剤を用いた治療を行う前に結核感染の有無を確認し、感染している場合は潜在性結核感染症の治療が推奨されているため、症例が増加しているが、基礎疾患等により治療の中断及び脱落が散見される。

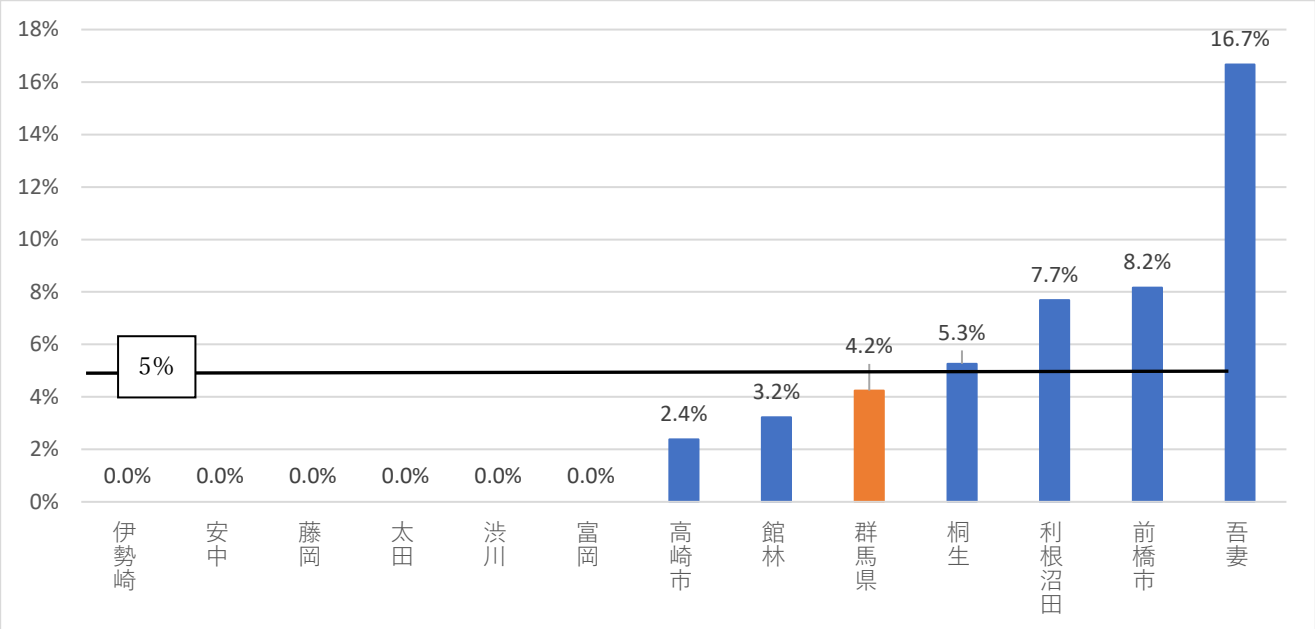
（6）【指標７】８０歳未満の初回治療患者に対する PZA を含む標準治療の実施率　　目標：90%



※藤岡、吾妻は対象患者なし

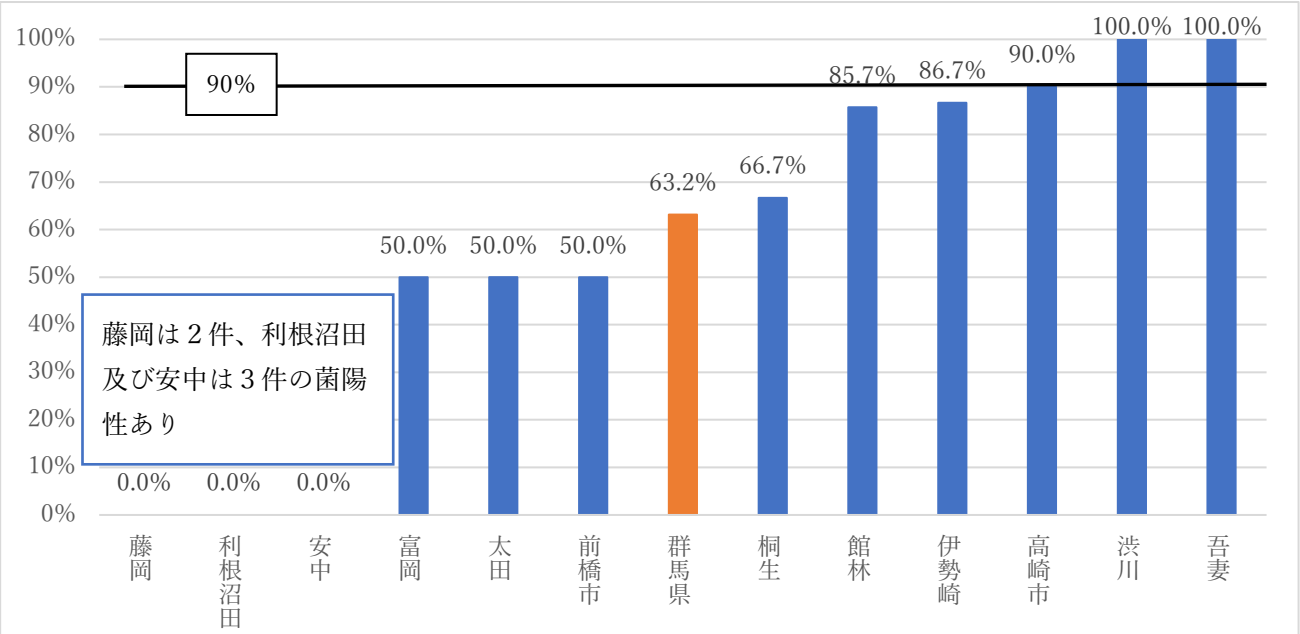
指標７は、確実な治療を行うため、８０歳未満の患者に対してＰＺＡを含む４剤治療が実施されているかを見たものである。令和３年度に結核医療の基準が改定されたことから、指標のあり方の検討が必要である。

（7）【指標８】全結核患者の活動性不明率　　目標：５%以下



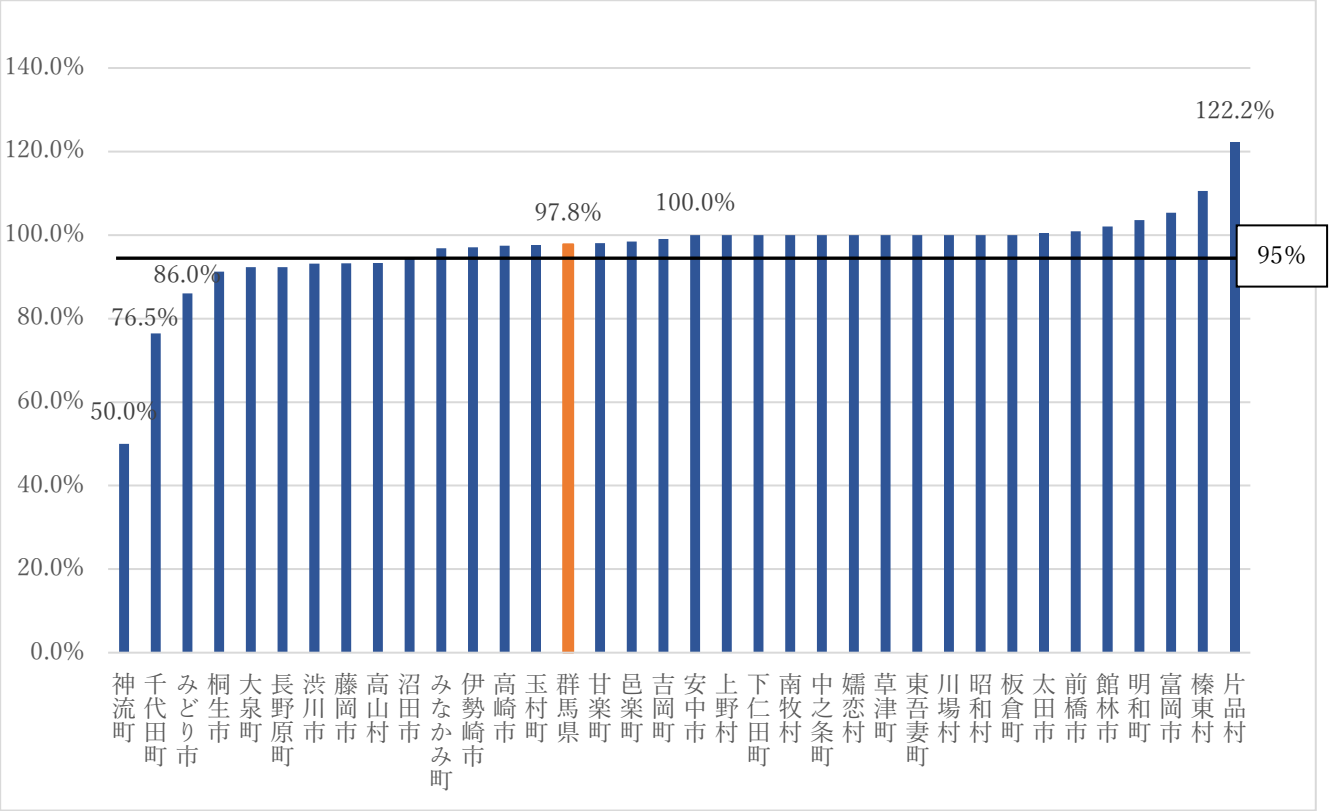
指標８は、保健所が治療終了後の結核登録者の病状を胸部エックス線検査又は喀痰検査の実施等により確実に把握しているかを評価するための指標である。目標値の５%以下を達成したが、各保健所の更なる努力が必要である。結核は、治療後の再発が多いことから、病状把握を徹底していく必要がある。

（8）【指標９】菌陽性患者の分子疫学的検査の実施率　　目標：90%



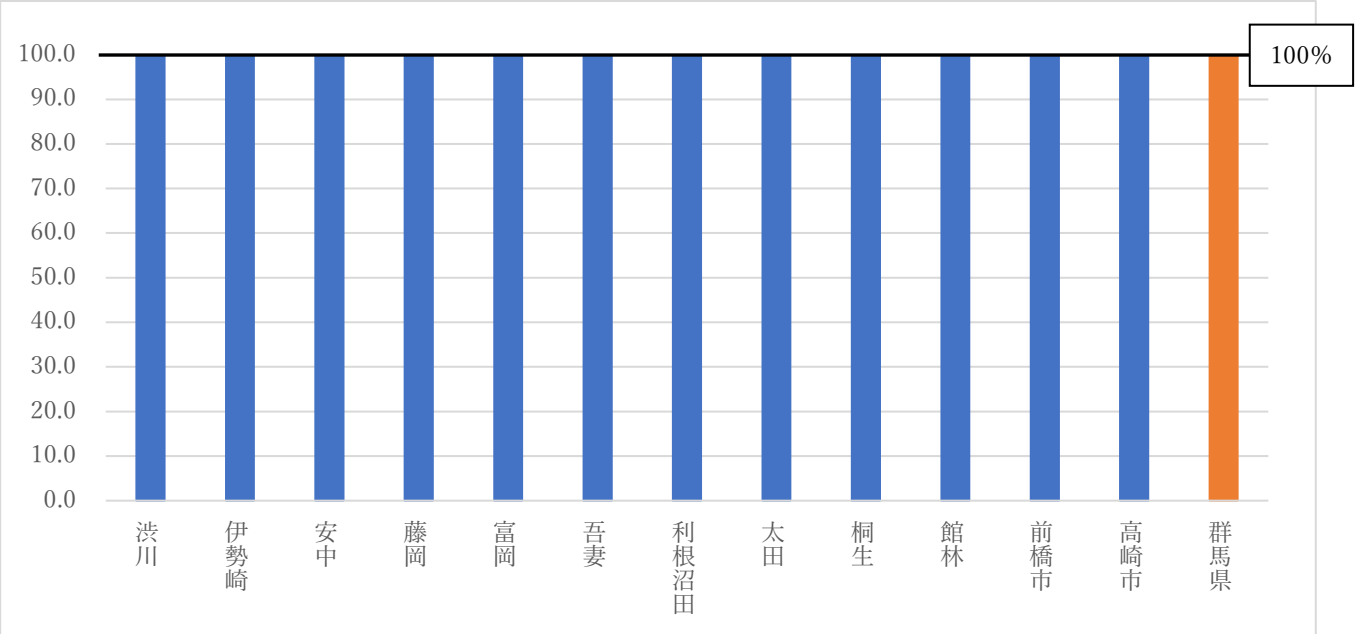
分子疫学的検査は、県の衛生環境研究所で結核菌の遺伝子解析を行い、実地疫学情報と組み合わせることにより、未知の感染源や感染経路を究明することを目的としている。本県では平成 28 年から実施している。新型コロナウイルス感染症の影響で、菌株の収集が減少しており、63%であった。

（9）【指標１０】BCG 接種率　　目標：95%以上



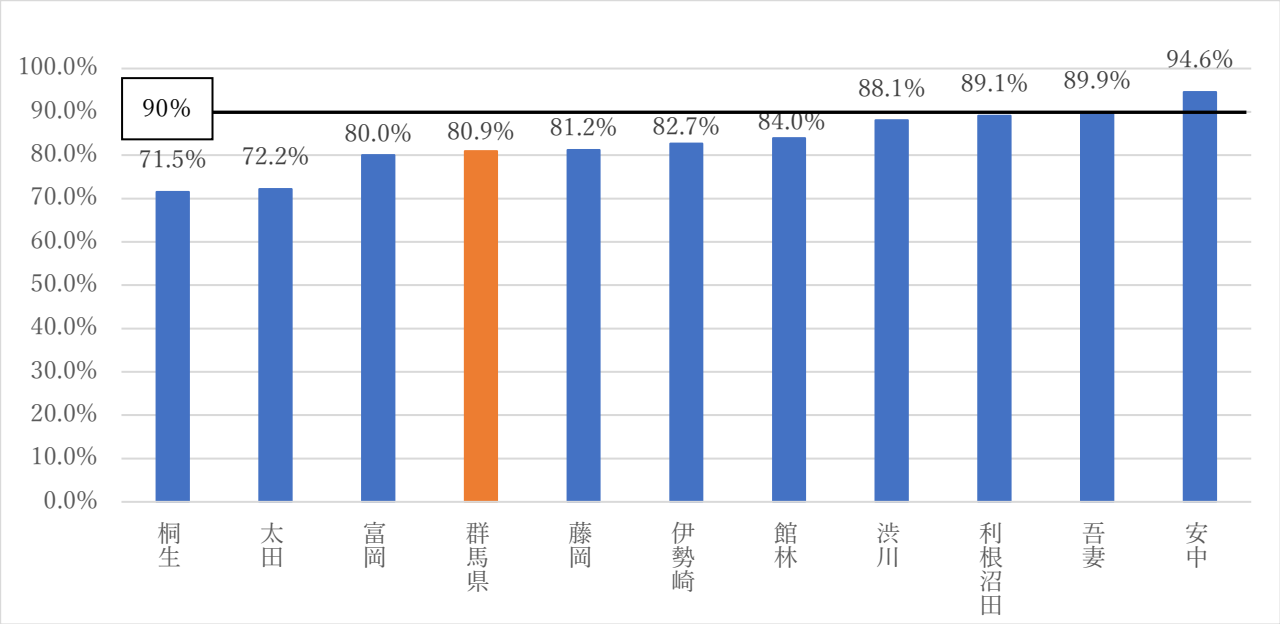
BCG は、乳児期に接種することにより、結核の発症を 52～74%程度、重篤な髄膜炎や全身性の結核に関しては 64～78%程度予防する効果があるとされている。県全体では、目標値を達成しているものの、大きく下回る市町村があることから、更なる取組が必要である。

（１０）【指標１１】接触者健康診断の受診率　　目標：100%



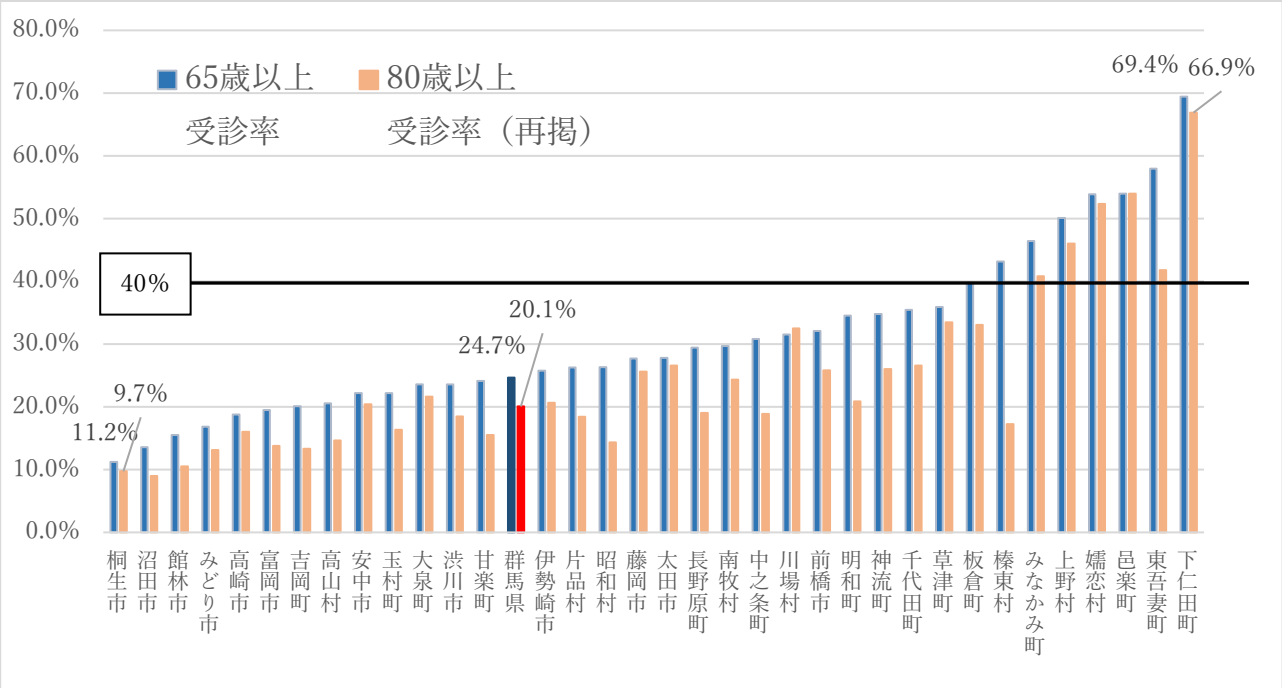
指標 11 は、結核のまん延を防止する上で最も基本的かつ有効な手段である接触者健康診断の実施を評価する指標であり、国は確実（100%）な実施を求めている。

（１１）【指標１２】結核健康診断実施月報の報告率（県保健所）　　目標：90%



指標 12 は、令和３年度に医療機関や社会福祉施設等が行った結核健康診断の報告率を評価したものであるが、県平均は 80.9%であり、目標の 90%には届いていない。各保健所では、例年、対象事業所等に指導しているが、桐生及び太田保健所管内の報告率が低く、今後も継続した指導を行っていく必要がある。

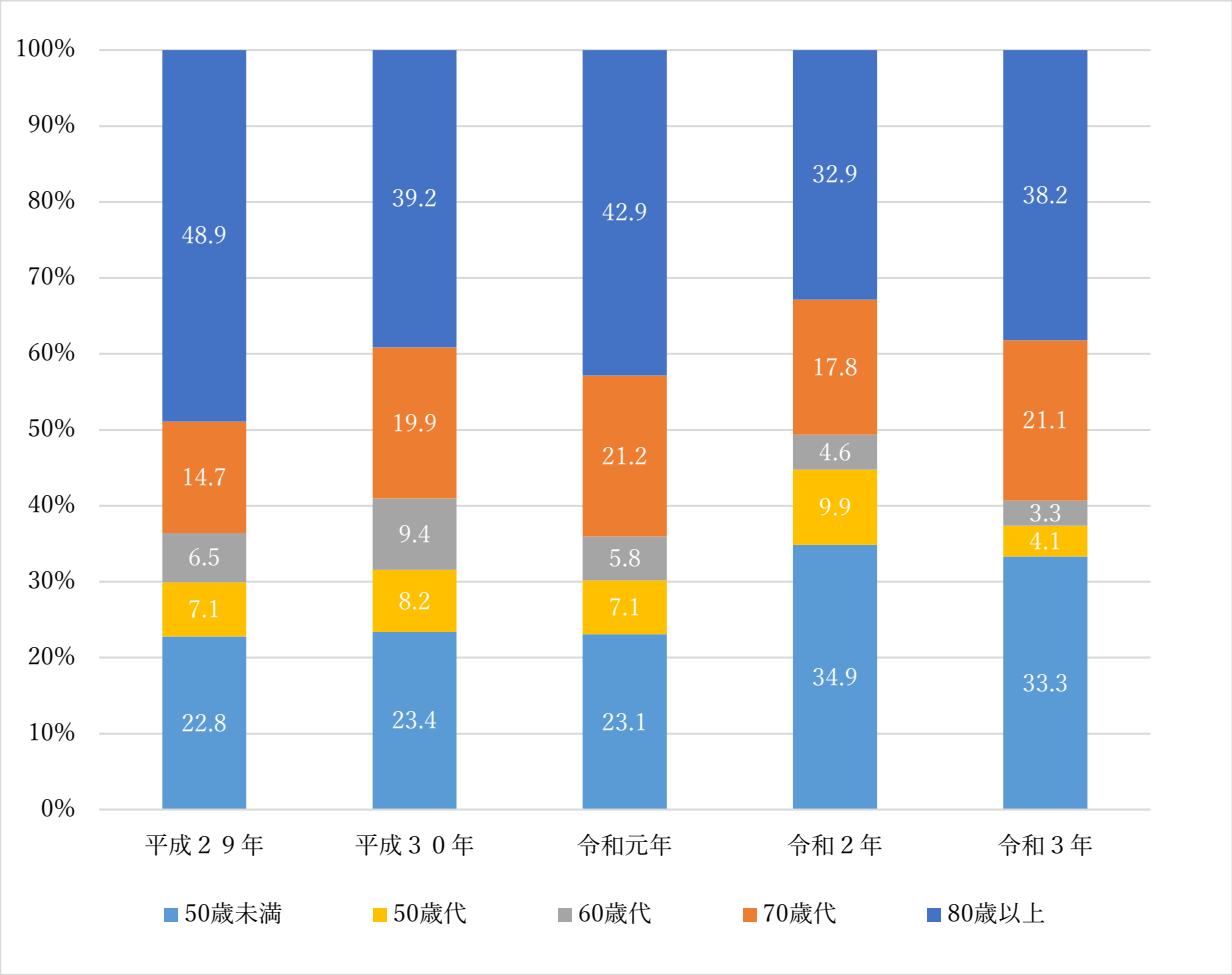
（１２）【指標１３】市町村長が実施する定期健康診断の受診率　　目標：40%



令和３年度においては、市町村が実施した定期結核健康診断の受診率は 24.7%であり、前年から 3.8 ポイント増加した。目標値の 40%にはほど遠いため、特に受診率が低い市を管轄する保健所は、受診率が向上するよう市を指導、支援していく必要がある。

3　高齢者の結核について

新登録患者（年次・年代別）

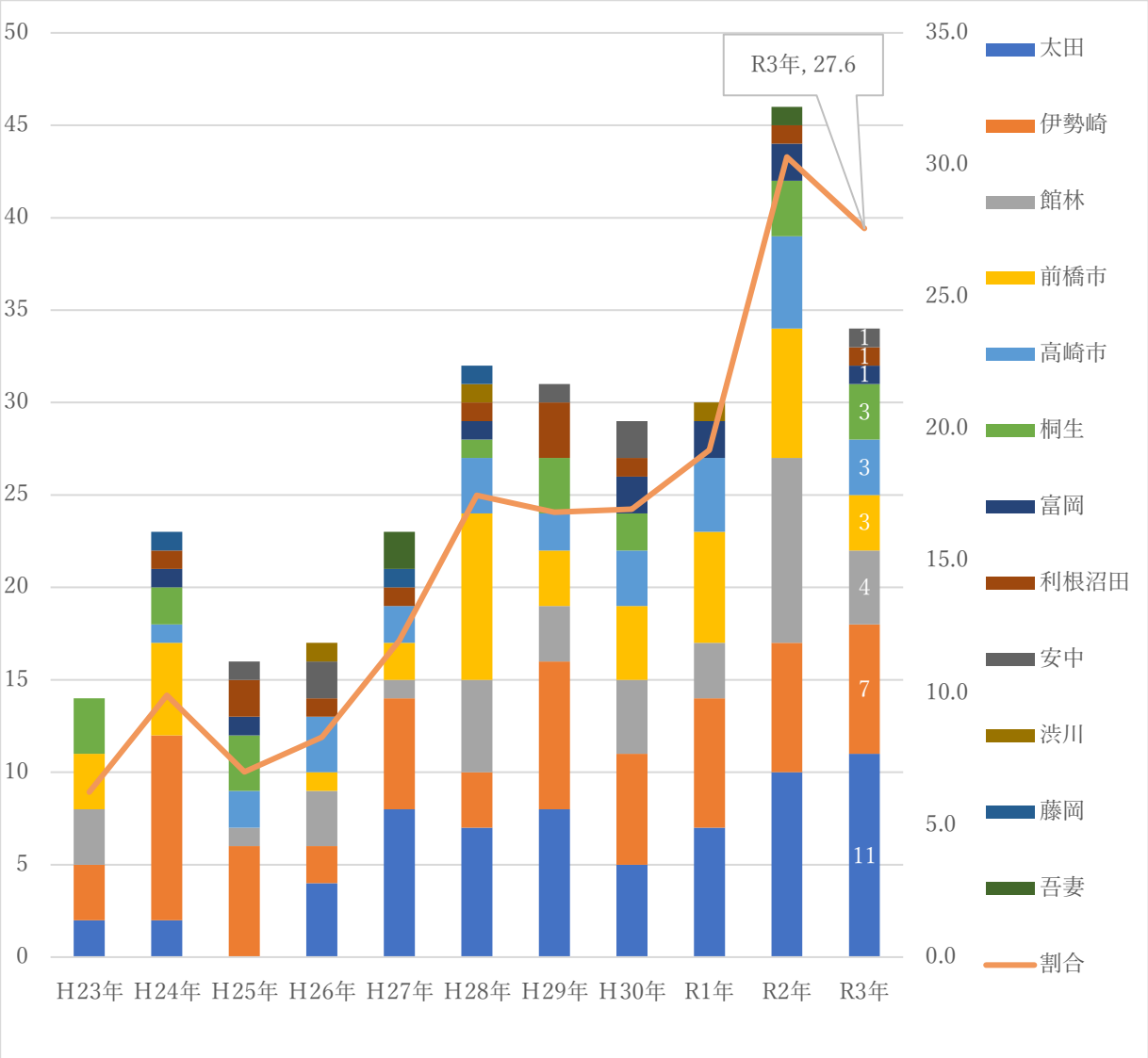


本県の結核は、患者数及び罹患率ともに年々減少しており、令和３年の新登録患者数は 123 人、罹患率は 6.4 と過去最低となった。しかしながら近年、結核がかつて国民病であった時代に感染した者が高齢化し、免疫力の低下等に伴って発病するケースが多くみられ、令和３年結核新規登録患者の約６割が 60 歳以上であった。

本県では、令和 4 年までに罹患率 7.0 を目指し、結核対策を進めてきたところ、令和４年の罹患率 6.4 と目標を達成することができた。罹患率を更に低下させるためには、高齢結核患者を効率的に早期発見できるよう定期健康診断の受診率向上及び有症状時の早期受診の勧奨などの対策を市町村と連携・協力して一層強化していく必要がある。

4　外国出生者の結核について

外国出生（推定含）新登録患者数－保健所別年次推移及び新登録患者に占める外国人出生（推定含）割合



令和３年の新登録結核患者に占める外国人の割合は 27.6%であり、前年 30.3%からわずかに減少した。一方、全国平均としては 11.4%であり、前年の 11.1%からほぼ横ばいであった。依然として本県は、全国の中でも上位であることから、コミュニケーションの問題が受診や治療継続の支障とならないよう、医療通訳派遣などの支援を充実させ、外国出生患者対策を今後も継続して実施していく。